

# 未発表の東洋文庫所蔵・河口慧海旧蔵 クメール文字パーリ語文献について

庄司 史生

## 1 はじめに

東洋文庫に、未整理のまま木箱の中に保管されていた全18束から成る、河口慧海旧蔵のクメール文字で記されたパーリ語文献群がある。

本稿は、未発表であったそれら文献群の紹介を目的とするものである。ここではこれらの文献をその木箱に記された墨書しゃむきょうに従い、「暹羅經」と記す。

詳細は後述するが、「暹羅經」は河口慧海の旧蔵書ではあるが、彼によって日本へと請来されたものではない。これらは大谷光演が暹羅国より請来し、それを譲り受けた大隈重信がさらに河口慧海に贈ったものである。

以下に、本稿では「暹羅經」の中、仏典（8種11束）を紹介する。そ



図版1 「暹羅經」

のタイトルを標題紙によって示す。( ) 内は束 (=phūk) 数、[ ] 内は東洋文庫での請求番号である。

- No.1 *Mahāvessantara-jātaka dasabhara* (1) [PLI-MS-1-1]
- No.2 *Mahāvessantara-jātaka jñjakka* (5) [PLI-MS-1-2]
- No.3 *Saṅgiṇi-pakaraṇa mātikā niṭṭhitā* (1) [PLI-MS-1-3]
- No.4 *Ghāna-vibhaṅgo niṭṭhito* (2) [PLI-MS-1-4]
- No.5 *Puggalapañatti mātikā niṭṭhitā* (4) [PLI-MS-1-5]
- No.6 *Kathāvatthu* (3) [PLI-MS-1-6]
- No.7 *Kathāvatthu-pakāraṇa mātikā niṭṭhitā* (5) [PLI-MS-1-7]
- No.8 *Mūlayamaka niṭṭhitā* (6) [PLI-MS-1-8]
- No.9 *Mahāpathāna-pakaraṇa mātikā niṭṭhitā* (7) [PLI-MS-1-9]
- No.10 *Abhidhammattha-saṅgaha* (1) [PLI-MS-1-10]
- No.11 *Abhidhammattha-saṅgaha* (2) [PLI-MS-1-11]

以上の他に、この「暹羅經」には各表紙に No.12 *Dhātu-krita-paripūṇa* [PLI-MS-1-12]、No.13 *Dhātu-krita-paripūṇa* [PLI-MS-1-13]、No.14 *Dhātu-uṇṇātaṇṇa-paripūṇa* [PLI-MS-1-14]、No.15 *Dhātu-uṇṇādi-paripūṇa* [PLI-MS-1-15]、No.16 *Dhātu-unāta-puripūralai* [PLI-MS-1-16]、No.17 *Dhātu-uṇṇāthi-paripūraṇa* [PLI-MS-1-17]、No.18 *Dhātu-uṇṇādi-paripūṇa* [PLI-MS-1-18] と記され、白紐で綴じられた束が7つある。これらには束間において混乱・混入が確認されることから、その内容については、今後整理を済ませた上で追って報告することとしたい。

なお、資料紹介に関しては、基本的な書誌情報を、『貝葉寫本目録：大谷大學圖書館所藏』（以下、「大谷目録」）の表記を参照して記した。本稿では各資料の書誌紹介にとどめ、これらの資料に基づいた資料研究は、今後の研究に委ねたい。

## 2 河口慧海旧蔵とする根拠と資料の来歴

本資料を河口旧蔵とする根拠を「暹羅經」自体に認めることはできな

い。その根拠は、資料を収めていた木箱に求めることができる。その根拠には二点がある。すなわち、①木箱外側貼付のメモ書き、②木箱蓋裏の銘文、である。

資料の来歴を明らかにするために、まずは資料を収めていた木箱に関する情報を記す。

## 2.1 木箱に貼付されたメモ書きと蓋裏に記された銘文

資料を収めていた木箱の概要について記す。この木箱には蓋がついている。その蓋表には墨書にて「暹羅経」とある。蓋裏には大隈重信による銘文が記されている（後述）。木箱の外側には河口慧海による和紙に記されたメモが貼付されている（後述）。

木箱には以下の3点が収められている。

- ①クメール文字パーリ語資料18束：本稿の「資料紹介」の項にて後に詳述する。
- ②夾板（天・地）：この中、一方には装飾がみられる。
- ③和紙：「暹羅多羅葉経典十五部 河口慧海蔵」（縦書）54.7 x 6.4cm

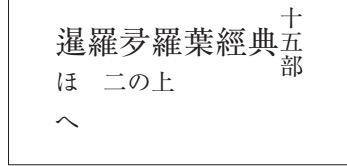
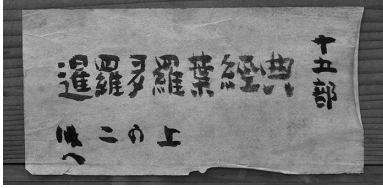
### 2.1.1 木箱のサイズ

資料を収めていた木箱のサイズは、次の通りである（横 x 縦 x 高）。

外寸：56.4 x 18.2 x 9.6cm  
内寸：55 x 16.6 x 7.4cm

### 2.1.2 木箱外側に貼付されたメモ書き

この木箱の外側には、河口慧海によると推定されるメモを記した和紙が貼付されている。

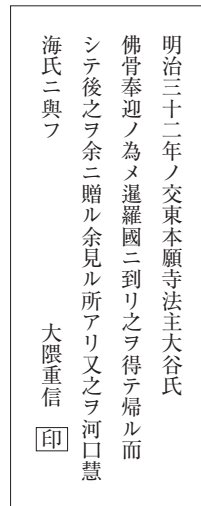
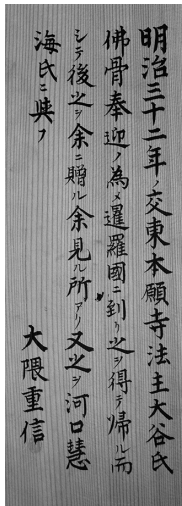


図版2 木箱のメモ

以上のようなメモは、河口慧海旧蔵資料によく見られるものである<sup>(1)</sup>。ここには「15部」とあるが、実際の木箱には18束が収められている。「15部」という計数と一致しないが、ここでは、仏典8種とその他の7種の計15部と理解しておく<sup>(2)</sup>。

### 2.1.3 木箱蓋裏に記された銘文

木箱蓋裏の銘文には、次のような記述がある。



図版3 銘文

この記述によると、本資料の来歴は次のとおりとなる。

明治32年、東本願寺法主・大谷〔光演〕<sup>(3)</sup>氏が、仏舎利を受取りに暹羅へ赴いた際に<sup>(4)</sup>、「暹羅經」を入手し、それを大隈重信(1838-1928)に贈った。さらに大隈重信がそれを河口慧海に贈った、と

ということである。

以上のように、木箱外側のメモ書きと、木箱蓋裏の銘文により、本資料を河口旧蔵と推定することができる。

## 2.2 資料の来歴に関わった人々

木箱の銘文によると、この「暹羅経」は、①大谷光演→②大隈重信→③河口慧海→④東洋文庫と伝えられたと考えられる。①～③の三者はいかなる関係にあったのであろうか。②大隈重信を中心として検証してみよう。

現在刊行中の早稲田大学大学史資料センター編『大隈重信関係文書』（以下、「大隈書簡」）によると、大谷光演、河口慧海が大隈重信に宛てた書簡の存在を知ることができる。

### 2.2.1 大隈重信と大谷光演

「大隈書簡」には、大隈重信宛大谷光演書簡が14部収められている<sup>(5)</sup>。これらの中に「暹羅経」に関する記述は見出すことはできない。ただし、書簡の存在によって、大谷光演と大隈重信との交流を知ることができる。

### 2.2.2 大隈重信と河口慧海

「大隈書簡」には、以下のとおり、一通のみであるが、大隈重信宛河口慧海書簡が収められている。

386 河口慧海 書翰 大隈重信宛

(明治三十七)年四月十四日

拜啓 西藏品図録西藏旅行記上巻出来上り候間進呈致し候。

蔵梵仏典購求会発表之義も日露大事件之為に延引致し居り

候。何れ事局の都合好くなり次第発表可致候に付、其節は

何分之御補助を奉願候也。

四月十四日

河口慧海

大隈伯爵御前

以上の書簡には「暹羅經」の話題は出ていない。ただし、大隈と河口慧海との交流の存在を確かめることはできる<sup>(6)</sup>。なお、ここに『西藏品図録』と『西藏旅行記上巻』、また「藏梵仏典購求会」に関する記述がみられることは興味深い<sup>(7)</sup>。

### 2.3 大谷光演による「暹羅經」の請来

暹羅国からの写本の寄贈については、「大谷目録」等に詳しい<sup>(8)</sup>。それによると、暹羅国から日本へと寄贈された貝葉写本には、下記の二種があることがわかる<sup>(9)</sup>。

- ①暹羅国王后陛下から、日本仏教徒へ送られた写本→日泰寺（旧日暹寺）<sup>(10)</sup>
- ②暹羅国王から、大谷光演に贈られた写本→大谷大学

以上の中、暹羅王室より正式に贈られたのは①であるとも言われている<sup>(11)</sup>。

さて、「暹羅經」木箱蓋裏の銘文によると、それが暹羅王室から大谷光演に贈られたと記されているから、「暹羅經」は、上記の②と関連があると考えられる。ただし、現時点では、資料の面から「暹羅經」と②の写本群との関係を直接的証拠は見いだすことはできない。

なお、上記二種の他にも、暹羅王室から個人に寄贈された写本の存在も知られている<sup>(12)</sup>。

### 2.4 河口旧蔵の根拠と来歴のまとめ

1. 「暹羅經」を河口慧海旧蔵とする根拠は、木箱の外側に貼付されたメモ書きと、木箱蓋の裏面に記された銘文とによる。
2. 資料の来歴を木箱蓋裏の銘文に従って推定してみると、暹羅王室→大谷光演→大隈重信→河口慧海→東洋文庫という流れとなる。
3. 東洋文庫所蔵本が大谷光演請来本である点によると、同じく大谷光演請来本を所蔵する大谷大学図書館所蔵本と、「暹羅經」と何ら

かの関係があるのかもしれない。

4. 「暹羅經」と同時期に暹羅より請来されたクメール文字パーリ語写本の来歴をまとめると次の通りとなる。

- A 暹羅国王后陛下→日本仏教徒→日泰寺（「日泰寺目録」を参照）
- B 暹羅国王→大谷光演→大谷大学（「大谷目録」を参照）
- C 暹羅国→大谷光演→大隈重信→河口慧海→東洋文庫（「暹羅經」）
- D 暹羅国皇帝陛下→その他の個人（藤吉 [1972]、同 [1991] を参照）

### 3 資料概要

「暹羅經」は、ターラ樹の葉（パームリーフ）に鉄筆にて文字を記したものである<sup>(13)</sup>。本写本のサイズは、各束ごとに採取したが、それは後述する。

前述のとおり、木箱には「暹羅經」の他に夾板が収められている。夾板のサイズは次の通りである。

- 夾板（上）：53 x 5.2 x 1.6cm 板に彩色あり（黄色、赤、青を使用）。
- 夾板（下）：53.5 x 5.2 x 1.5cm 板に彩色なし。

また先述したように、資料を収めた木箱には、「暹羅多羅葉經典十五部 河口慧海藏」（縦書き、54.7 x 6.4cm）と記された和紙が収められている<sup>(14)</sup>。

さて、「暹羅經」は、フォリオの裏左側に葉番号（フォリオ番号）を付している。番号は、クメール文字を用いる。ka~kaḥ までの12文字。その後は kha~khaḥ まで、と順次進んでいく。また、本写本には左右に穴（ストリングホール）がある。紐が付属されているものは、すべて左側の穴に通してある。

仏典は、一部の例外を除き、基本的に小口が金一色に塗られ、赤紐で綴じられている。一方、仏典以外の文献は、すべて小口を金朱金とし、白い紐で綴じられている。以下に、各資料の書誌を記す。

### 3.1 凡例

- ・タイトルは、表紙タイトルから採録している。
- ・各文献の書誌情報は「大谷目録」に順じている。
- ・掲載順は、CPD (Clitical Pāli Dictionary) 番号による。
- ・○ はストリングホールを示す。
- ・「大谷目録」、「日泰寺目録」に同名文献が存在する場合は、その旨を備考に記す。

### 3.2 各資料の書誌

以下に、「大谷目録」を参照して、「暹羅経」8種11束の書誌を記す。

#### No.1 *Mahā-vessantara-jātaka* (1)

1. 標 題：○ // // braḥ mahāvessantarajāṭakadasabhara phūk  
1 // ○
2. CPD 番号：2.5.10, 1 (Ja: Jātaka-aṭṭhakathā)
3. 請求番号：PLI-MS-1-1
4. 使用言語：Pāli
5. 使用文字：Khmer
6. 数 量
  - a) 貝葉数量：15葉
  - b) 数量詳細：1, [3], 8, [3]
  - c) フォリオ番号：*ka-kae*
7. 貝葉形態
  - a) サイズ：54.2 x 4.9cm
  - b) 穴位置：左17.4cm 穴間18.8cm 右17.2cm
  - c) 小口塗装：金16.7 朱0.3 金0.3 朱19.5 金0.2 朱0.2 金16.6  
cm
  - d) 保存状態：良
  - e) 記入行数：5行
  - f) 記入寸法：45.5 x 3.8cm



g) 文字形態：

h) 文字密度：15文字／10cm

8. 卷 頭：[folio *ka, verso*] PTS p. 481ff?

- (1) ○ *namo tassa bhagavato arahato sammāsabuddhassa / phu- ○*
- (2) ○ *ssa varavaṇṇābheti idaṃsathākāpilavatthuṃ upanissāyanig-  
rodhā ○*
- (3) ○ *rāme viharentopokkharavassamāratbhakathesi / yadāhisa- ○*
- (4) ○ *tthāpavattitapavaradhammacakkoanukkammenarājagahaṃ-  
gantvṃ tatthahema- ○*
- (5) ○ *ntaṃvītināmetvā udāyittherenamagguddesakena vīsatisaha-  
ssa- ○*

9. 卷 末：[folio *kae, recto*]

- (1) ○ *pamoditacitto tuṭṭhamānasoamosī : ○*
- (2) ○ // // *dasabharavaṇṇāniṭṭhitā // // 19 : ○*
- (3) ○ *braḥ gāth // nibbānapaccayohoti // // ○*

10. 奥 付：無し

11. 内容細目：

12. 注記事項：

13. 備 考：「大谷目録」pp.204-205 (XIV-5)を参照。「日泰寺目録」にはなし。表紙に Khmer 文字の書き入れあり。また、文字消しあり (ka 葉裏、kā 葉表・裏、ki 葉表、kī 葉表・裏、ku 葉裏、kū 葉表、ke 葉表)。Khmer 手書き書き入れあり (kā 葉表・裏、ka 葉表・裏、kā 葉表・裏、ki 葉表・裏、kī 葉表・裏、ku 葉表、kū 葉表)。本写本の綴じ紐は白である。

No.2 *Mahā-vessantara-jātaka* (5)

1. 標 題：○// *braḥ mahāvessantarajātaka jūjakka phūk 5 //  
// ○ //*
2. CPD 番号：2.5.10, 1 (Ja: *Jātaka-aṭṭhakathā*)
3. 請求番号：PLI-MS-1-2
4. 使用言語：Pāli

5. 使用文字：Khmer
6. 数 量
- a) 貝葉数量：15葉
- b) 数量詳細：1, [3], 10, [2]
- c) フォリオ番号：ñe-ci, [cī] \*folio番号は ci まで
7. 貝葉形態
- a) サイズ：54.1 x 4.7cm
- b) 穴位置：右17.4cm 穴間18.8cm 左17.1cm
- c) 小口塗装：金16.9 朱0.3 金0.2 朱19.6 金0.2 朱 3 金16.6  
cm
- d) 保存状態：良
- e) 記入行数：5行
- f) 記入寸法：45.6 x 3.8cm
- g) 文字形態：
- h) 文字密度：15文字／10cm
8. 巻 頭：[folio ñe, verso]
- (1) ○ / tadākaliṅgaratṭhedunnaviṭṭhabrāhmaṇagāmasī jūjako : ○
- (2) ○ nāmabrāhmaṇobhikkhācariyāya kahāpanasataṃlabhitvā ○
- (3) ○ ekasmiṃ brāhmaṇakuleṭhapetvā puna dhanampariyesanatt-  
hāyaga- ○
- (4) ○ to / tasmi cirāyante brāhmakaṇakulaṃ kahāpanevasa- ○
- (5) ○ ñjetvā pacchā itarena āgantvā codiyamānaṃ kahāpaṇe ○
9. 巻 末：[folio [cī], recto]
- (1) ○ tumbaṃ miggasatthiñcabrāhmaṇa tañcatedesamakkhissaṃ :  
○
- (2) ○ yatthasammatikāmadoti / tatthapiyassametimamapi ○
- (3) ○ yassavessantarassatvaṃpiyodūtotaavajjhāsayaapuraṇaṃ : ○
- (4) ○ puṇṇapattaṃdemīti / jūjakkapabbṃniṭṭhitamparipuṇṇaṃ //  
// ○
- (5) ○ // 79 braḥ gāthā // khābahennāksukapamasama // ○
10. 奥 付：無し

11. 内容細目：
12. 注記事項：
13. 備考：「大谷目録」 pp.209-210 (XXXVI-5) を参照。「日泰寺目録」にはなし。本写本には紐なし。前項の写本（「暹羅経」No.1）と小口の色が同じであり、両者はワンセットと考えられる。

No.3 *Saṅgiṇi* (1)

1. 標 題：○ // bra saṅgiṇipakaraṇamātikāṇiṭṭhitā // phūk 1 /  
// ○ // 19 pai
2. CPD 番号：3.1 (Dhs: Dhammasaṅgaṇī)
3. 請求番号：PLI-MS-1-3
4. 使用言語：Pāli
5. 使用文字：Khmer
6. 数 量
  - a) 貝葉数量：22葉
  - b) 数量詳細：1, [2], 18, [1]
  - c) フォリオ番号：*ka-khū*
7. 貝葉形態
  - a) サイズ：54.0 x 5.2cm
  - b) 穴位置：左17.2cm 穴間18.1cm 右17.4cm
  - c) 小口塗装：金一色
  - d) 保存状態：良
  - e) 記入行数：5 行
  - f) 記入寸法：44.5 x 4cm
  - g) 文字形態：
  - h) 文字密度：13文字／10cm
8. 巻 頭：[folio *ka, verso*] PTS 1885, p.1, ll.2-7.
  - (1) ○ // namotassabhagavato arahatosammāsambuddhassa / ○
  - (2) ○ kusaladhammā akusaladhammā avyākatādhammā sukhā- ○
  - (3) ○ yavedanāyasampayuttādhammā dukkhāyavedanāyasampa- ○
  - (4) ○ yuttā dhammādukkhamasukhāya vedanāyasampayuttā : ○

- (5) ○ dhammā / vipākādhammā vipākadhammādhammā nevavi-pākana ○
9. 卷 末：[folio *khu*, verso~*khū*, recto] PTS 1885, p.14, l.15ff.
- (1) pādohoti / katamātasmiṃsamaye sammādiṭṭhihōti / yotasmiṃsamaye pañā pajānanāvicayoca yodhammavica-
- (2) yo sallakkhaṇā upalakkhaṇā paccupalakkhaṇā paṇḍiccaṃkosallanepuṇaṃ vebhavebbā cintā upaparikkhā
- (3) bhūrimedhāparināyikā vipassanā◦sarampajjaṇaṃ patodo pañindriyaṃbalaṃ paṇāsatthaṃ pañāpāsādo :
- (4) pañāaloko pañāobh◦so pañāpajoto pañāratanaṃ a◦modhammavicayo sammādiṭṭhi
- (5) kammanatthi kiṇiākiṇi yāyatanaṃ upasammājjaviharati sabbaso ākiṇcañāyatanaṃsamati kammanevasañānāsañā
- (1) ○ yatanaṃ upesampajjaviharatī / sāhanavi- ○
- (2) ○ bhacgonatḥito / nibbānapaccayohoti / ○
10. 奥 付：無し
11. 内容細目：
12. 注記事項：
13. 備 考：「大谷目録」 pp.333-334 (XXXVII-1) を参照。「日泰寺目録」には、No.11 *Abhidharmasaṅgini* phūk 1 (ka-khū) と No.16 *Abhidhammasaṅgini* phūk 1 (ka-khe) がある。本写本の綴じ紐は赤である。

No.4 *Ghāna-vibhaṅgo niṭṭhito* (2)

1. 標 題：○ // ghānavibhaṅgoniṭṭhito // phūk 2 // ○ 13 pai
2. CPD 番号：3.2 (Vibhaṅga)
3. 請求番号：PLI-MS-1-4
4. 使用言語：Pāli
5. 使用文字：Khmer
6. 数 量
- a) 貝葉数量：16葉

b) 数量詳細：1, [1], 12, [2]

c) フォリオ番号：ga-gaḥ

7. 貝葉形態

a) サイズ：54.1 x 5.2cm

b) 穴位置：左17.2 穴間18.2 右17.5

c) 小口塗装：金一色

d) 保存状態：良

e) 記入行数：5行

f) 記入寸法：45.4 x 4cm

g) 文字形態：

h) 文字密度：16文字／10cm

8. 巻 頭：[folio ga, verso] Cf. PTS 1904, p.1, 16ff.

- (1) ○ / pañcakkhandā rūpakkhandho vedanākkhandho : ○
- (2) ○ sañākkhandho saṃkhārakkhandho viñānakkhandho ti : ○
- (3) ○ // khandhavibhaṅgo // dvādasāyatanāni cakkhā- ○
- (4) ○ yatanam rūpāyatanam sotāyatanam saddā- ○
- (5) ○ yatanam ghānāyatanam gandhāyatanam jivhāyatanam ○  
[folio gā, recto]
- (1) ○ rasāyatanam kāyākaranam phoṭṭhabbāyatanam manā- ○
- (2) ○ yatanam dhammāyatananti // āyatanavibhaṅgo // ○
- (3) ○ aṭṭhārasadhātuyo cakkhadhātu rūpadhātu cakkhaviñā- ○
- (4) ○ ṇadhātu sotadhātu saddadhātu sotaviñāṇadhātu ○
- (5) ○ ghānadhātu gandhadhātu ghānaviñāṇadhātu jivvadhātu ○

9. 巻 末：[folio gaḥ, recto]

- (1) ○ nam samati kammanatthikañ ci ākiñcāñāyatanam upa- ○
- (2) ○ sampajja viharati sabbe so ākiñcāñā : ○
- (3) ○ yatanam sammati kimmavesañānāsāñāyatanam : ○
- (4) ○ upasampajja viharati / ghānavibhaṅgo niṭṭhito // ○
- (5) ○ nibbāna nibbānapaccayo hoti // ○

10. 奥 付：無し

11. 内容細目：

12. 注記事項：
13. 備考：「大谷目録」 p.389 (XLIX-2) を参照。「日泰寺目録」にはなし。本写本の綴じ紐は赤である。

No.5 *Puggalapaññatti* (4)

1. 標 題：○ // bra kathāvatthupakāraṇamātikāṇiṭṭhitā // phūk  
5 ○ // 12 pai
2. CPD 番号：3.4 (Pp: *Puggalapaññatti*)
3. 請求番号：PLI-MS-1-5
4. 使用言語：Pāli
5. 使用文字：Khmer
6. 数 量
  - a) 貝葉数量：16
  - b) 数量詳細：1, [1], 12, [2]
  - c) フォリオ番号：ñā-ñāḥ
7. 貝葉形態
  - a) サイズ：54.1 x 5.3cm
  - b) 穴位置：左17.3cm 穴間18.1cm 右17.3cm
  - c) 小口塗装：金一色
  - d) 保存状態：良
  - e) 記入行数：5 行
  - f) 記入寸法：45.5 x 4.0cm
  - g) 文字形態：
  - h) 文字密度：14文字／10cm
8. 巻 頭：[folio *ñā*, *verso*] Cf. PTS 1883, p.1, //5-10.
  - (1) ○ *chapaññatiyo khandhapaññatti āyatana* : ○
  - (2) ○ *paññatti dhātupaññatti saccapaññati indri* ○
  - (3) ○ *paññatti puggalapaññatti / kittāvattā* : ○
  - (4) ○ *khandhānaṃ khandhapaññatti yāvatāpañcakkhandhā rūpakkhandhā deveda* : ○
  - (5) ○ *nākkhandho sañākkhandho saṃkhārakkhandhā viñāṅakkha*

ndhā ettā ○

9. 卷 末：[folio *caḥ, recto*] p.9, ll.17-20

- (1) ○ ananussutesu dhammesu sāmaṃ saccāni abhisa- : ○
- (2) ○ mbujjhati daṭṭheva dhamme dukkhassantaṃkaro : ○
- (3) ○ hoti sāvakaṃpāramipaṃ pāpuṇāti atthekacco ○
- (4) ○ puggaloti / bra puggalapaññattimātikāniṭṭhito / ○
- (5) ○ // nibbānapaccayohoti // ca // ○

奥 付：無し

11. 内容細目：

12. 注記事項：表紙は *kathāvatthu* (5)

13. 備 考：「大谷目録」 pp.424-425 (VIII-4) を参照。「日泰寺目録」には No.14 *Puggalapaññatti phūk 4* (ñā-ṭhai)、No.14 *Puggalapaññattipakaraṇapariccheda phūk 4* (ñā-ci)がある。本写本の綴じ紐は赤である。なお、*Puggalapaññatti* (4) と *Kathāvatthu* (5) において、表紙と本文紙とが入れ替わる例が、「大谷目録」にもみられる。本写本と同様に、「大谷目録」には内容は *Puggalapaññatti* (4) であるが、表紙は *Kathāvatthu* (5) となっているものがあるという（「大谷目録」 pp.428-429を参照）。

No.6 *Kathāvatthu* (3)

- 1. 標 題：○ // // braḥ kathāvatthu // phūk // gi // 3 // // :
- 2. CPD 番号：3.5 (Kc: *Kathāvatthu* (ppakaraṇa))
- 3. 請求番号：PLI-MS-1-6
- 4. 使用言語：Pāli
- 5. 使用文字：Khmer
- 6. 数 量
  - a) 貝葉数量：26葉
  - b) 数量詳細：1, [1], 23, [2]
  - c) フォリオ番号：ñā-caḥ
- 7. 貝葉形態
  - a) サイズ：55.2 x 4.4cm
  - b) 穴位置：左17.4cm 穴間18.4cm 右17.6cm

- c) 小口塗装：金16.3 黒0.3 金0.3 黒0.3 金0.3 朱18.2 金0.5  
 黒0.3 金0.3 黒0.3 金16.9cm
- d) 保存状態：良
- e) 記入行数：5行
- f) 記入寸法：46.2 x 3.7 cm
- g) 文字形態：
- h) 文字密度：18文字／10cm
8. 巻 頭：[folio, *na*, *recto*] Cf. PTS 1894, p.62, l.16ff.
- (1) nosukhaṃvedanavediyāmitipajānātīkatvātena?cakāraṇepa-  
 puggaloupalabbhatisacchikaṭṭha paramaṭṭhenātiāmantayo sukha-  
 ṃvedanaṃvediyāmano sukhavedanaṃvediyāmiti pajānātisve :
- (2) ○vapuggaloyosukhavedanaṃvediyamānosukhaṃ ve○danaṃve-  
 diyāmitīnapajānātīnaso puggalotinamohevaṃvattabbe / pe /  
 yo
9. 巻 末：[folio, *caḥ*, *verso*] Cf. PTS 1894, p.94, ll.14-23.
- (4) byāpannacittāmicchādiṭṭhikāti nahevaṃvattabbe // ○ pe //  
 nanuatthidevaajalānelamugāviññu nahatthasaṃvā○cīkāpaṭib-  
 alā-subhālitadubbhālītanāṃatthamañā:
- (5) ○ otuṃatthidevabuddhepassannādhammepassannāsaṅghepas-  
 sannābuddhaṃ bhagavantam payirupāsāntibuddhaṃbhagava-  
 ntampañhaṃpucchantibuddhenabagavatāpañhevissajjite atta-  
 manāhontiatthidevanakammāva
10. 奥 付：無し
11. 内容細目：
12. 注記事項：
13. 備 考：「日泰寺目録」には No.15 *Kathāvattihuleeatthakathāgāma-  
 prasaṅga* phūk 5 (ka-khu)、No.20 *Kathāvattihupakaraṇapariccheda*  
 phūk 6 (chaḥ-jū)がある。本写本の綴じ紐は白・薄茶・薄緑・水色  
 から成る。小口の塗装、綴じ紐が異なることから、前掲の No.5と  
 は別写本である。



No.7 *Kathāvatthu* (5)

1. 標 題：○ // bra puggalapañattimātikāṇiṭṭhitā // phūk 4 //  
○ 11 pai //
2. CPD 番号：3.5 (Kc: Kathāvatthu (ppakaraṇa))
3. 請求番号：PLI-MS-1-7
4. 使用言語：Pāli
5. 使用文字：Khmer
6. 数 量
  - a) 貝葉数量：15葉
  - b) 数量詳細：1, [1], 11, [2]
  - c) フォリオ番号：ca [cca となっている] -cam
7. 貝葉形態
  - a) サイズ：54.1 x 5.3cm
  - b) 穴位置：左17.2cm 穴間18.7cm 右17.4cm
  - c) 小口塗装：金一色
  - d) 保存状態：良
  - e) 記入行数：5 行
  - f) 記入寸法：45.6 x 4.0cm
  - g) 文字形態：
  - h) 文字密度：（7 文字 / 5 cm）
8. 卷 頭：[folio cca, verso] PTS 1894, vol.1, p.2, ll.4-12.
  - (1) ○ / puggaloupalabbhati sacchikatthaparamatthenāti : ○
  - (2) ○ āmantāho / sacchikaṭṭheparamattho tato : ○
  - (3) ○ sopuggalaupalabbhati sacchikatthaparamatthenāti : ○
  - (4) ○ nahevaṃvattabbe / ajānāhiniggahaṃ hañci ○
  - (5) ○ puggale upalabbhati sacchikatthaparamatthena : ○
9. 卷 末：[folio co, verso] PTS 1894, p.7.1.32-p.8, l.1.
  - (4) ○ / dutiyoniggaho / puggala u- ○
  - (5) ○ palabbhati sacchikaṭṭhaparamatthenāti : ○  
[folio cam, recto] PTS 1894, p.8.ll.2-4.
    - (1) ○ āmantā / yosacchikaṭṭhoparamattho tato : ○

- (2) ○ sopuggalo upalabbhati sacchikaṭṭhaparamatthe ○
  - (3) ○ nāti / bra kathāvatthupakāraṇamātikā : ○
  - (4) ○ niṭṭhitā / nibbānapaccayohoti / ○
  - (5) ○ / kusaṇadhamme sammāsambaṭho ○
10. 奥 付：無し
11. 内容細目：
12. 注記事項：表紙は Puggalapaññatti (4)
13. 備 考：「大谷目録」 pp.438-439 (XXIV-8 b)、同目録 pp.439 (XLVII-5) を参照。また同目録 pp.426を参照。なお、「大谷目録」 p.427 (XLIX-4) と本文冒頭が同じである。前文献の項にて示した通り、「日泰寺目録」には No.15 *Kathāvatthuleeatthakathāgāmaprasaṅga phūk 5* (ka-khu)、No.20 *Kathāvatthupakaraṇapariccheda phūk 6* (chaḥ-jū)がある。本写本の綴じ紐は赤である。

No.8 *Mūlayamaka-niṭṭhitā* (6)

- 1. 標 題：○ // mūlayamakaniṭṭhitā phūk 6 // 8 pai // ○
- 2. CPD 番号：3.6 (Yam: Yamaka-pakaraṇa)
- 3. 請求番号：PLI-MS-1-8
- 4. 使用言語：Pāli
- 5. 使用文字：Khmer
- 6. 数 量
  - a) 貝葉数量：12
  - b) 数量詳細：1, [1], 8, [2]
  - c) フォリオ番号：*cha-chai*
- 7. 貝葉形態
  - a) サイズ：54.1 x 5.1cm
  - b) 穴位置：左17.3cm 穴間18.6cm 右17.3cm
  - c) 小口塗装：金一色
  - d) 保存状態：良
  - e) 記入行数：5 行
  - f) 記入寸法：45.5 x 4.0 cm

- g) 文字形態：
- h) 文字密度：(9 文字 / 5 cm)
8. 巻 頭：[folio *na, verso*] PTS 1911, p.1, ll.6-10.
- (1) ○ // yekecikusalādhammā sabbekusalamū- ○
- (2) ○ lā yevāpanakusalamūlā sabbetedhammā : ○
- (3) ○ kusalā / yekecikusalādhammā sabbe ○
- (4) ○ te kusalamūenaekamūlā yevāpanakusa- ○
- (5) ○ lamūlenaekamūlā sabbetedhammākusalā / ○
9. 巻 末：[folio *nai*] PTS 1911, p.2.
- (1) ○ tenāmadhammānāmā / yekecināma : ○
- (2) ○ dhammā sabbetenāmamūlamūlakā ye ○
- (3) ○ vāpanamūlamūlakā sabbetedhammānāma : ○
- (4) ○ / mūlayamakaniṭṭhita / nibbānana ○
- (5) ○ paccayohoti / kusaṇadhamme sammā / ○
10. 奥 付：無し
11. 内容細目：
12. 注記事項：
13. 備 考：「大谷目録」 pp.453-454 (VIII-6)、同目録 pp.454-455 (XVIII-14) を参照。「日泰寺目録」には、No.21 *Yamakapakaraṇasa-mkhepato* phūk 5 (jha-jhaḥ) がある。本写本の綴じ紐は赤である。

No.9 *Mahā-pathāna-pakaraṇa-mātikā-ṇiṭṭhitā* (7)

1. 標 題：○ // bra mahāpathānapakaraṇamātikāṇiṭṭhitā / phūk  
7 // ○ 15 pai
2. CPD 番号：3.7 (Paṭṭh: paṭṭhāna (Mahāpakaraṇa))
3. 請求番号：PLI-MS-1-9
4. 使用言語：Pāli
5. 使用文字：Khmer
6. 数 量
- a) 貝葉数量：23葉
- b) 数量詳細：1, [3], 15, [4]

c) フォリオ番号：*ja-jhi*

7. 貝葉形態

a) サイズ：54.1 x 5.3cm

b) 穴位置：左17.2cm 穴間18.2cm 右17.3cm

c) 小口塗装：金一色

d) 保存状態：良

e) 記入行数：5行

f) 記入寸法：45.5 x 4.0cm

g) 文字形態：

h) 文字密度：13文字／10cm

8. 巻頭：[folio *ja, verso*]

- (1)  hetupaccayo ārammaṇapaccayo adhipa-○
- (2)  tipaccayo anantarapaccayo samanantarapacca-○
- (3)  yo saha-jātāpaccayo añamañapaccayo :○
- (4)  nissayapaccayo upanissayapaccayo pure-jātāpacca-○
- (5)  yo pacchā-jātāpaccayo āsevanapaccayo :○

9. 巻末：[folio, *jhi, recto*]

- (1)  cittacetāsikādhama citta-samuṭṭhānānaṃ rūpānaṃ :○
- (2)  aviggatāpaccayenapaccayo / mahābhūtā ○
- (3)  upādārūpānaṃ aviggatāpaccayena paccayo / ○
- (4)  bra-mahāpathānapakaraṇamātikāniṭṭhitā / ni- :○
- (5)  bbānapaccayohoti / buddhamdhammaṃsaṃghaṃ :○

10. 奥付：無し

11. 内容細目：

12. 注記事項：

13. 備考：「大谷目録」 pp.497-498 (XXIV-13) を参照。「日泰寺目録」には No.22 *Samantamahāpaṭṭhānapariccheda* phūk 7がある。本写本の綴じ紐は赤である。

No.10 *Abhidhammattha-saṅgaha* (1)

1. 標題：○ // // bra abhidhammatthasaṅgaha phūk 1 // //

○

2. CPD 番号：3.8.1 (Abhidh-s: Abhidhammattha-saṅgah a)
3. 請求番号：PLI-MS-1-10
4. 使用言語：Pāli
5. 使用文字：Khmer
6. 数 量
  - a) 貝葉数量：32葉
  - b) 数量詳細：1, [3], 25, [3]
  - c) フォリオ番号：ka-kī, kū-gā
7. 貝葉形態
  - a) サイズ：54.1 x 4.9cm
  - b) 穴位置：左17.9cm 穴間17.4cm 右18.1cm
  - c) 小口塗装：金一色
  - d) 保存状態：良
  - e) 記入行数：5 行
  - f) 記入寸法：45.7 x 3.6cm
  - g) 文字形態：
  - h) 文字密度：16文字／10cm
8. 卷 頭：[folio ka, verso] PTS, p.1, //4-14.
  - (1) ○ // sammāsambuddhamatulaṃ sasaddhammaṇuttamaṃ abhivādiya bhāsi- ○
  - (2) ○ ssaṃ abhivādhammatthasaṅgahaṃ / tatthavuttābhidhammatthā catudhāpa- ○
  - (3) ○ ramatthacittaṃ cetasikaṃrūpaṃ nibbānamitisabbathā / tattha ○
  - (4) ○ cittaṃtāva catuvidhaṃhoti kāmāvacaraṃrūpāvacaraṃ arūpāvacara- ○
  - (5) ○ raṃ lokuttarañeti / tatthakatamaṃkāmāvacaraṃ / somana- ○
9. 卷 末：[folio gā, verso] PTS, p.27, //11-15.
  - (1) ○ uppajjitabbabhavānurūpaṃtatthonataṃvacittasantānaṃ a- ○

- (2) ○ bhikkhaṃpavattatibāhullena / tammevavāpanajanakabhū- ○
  - (3) ○ taṃkamrṇaṃ abhinavakaraṇavasena dvārappattaṃ hoti ○
  - (4) ○ / paccāsannamaranassasatassa vithicittāvisāne : ○
  - (5) ○ bhavaṅgakkhaye vā vacanavase : ○
10. 奥 付：無し
11. 内容細目：
12. 注記事項：
13. 備 考：「大谷目録」 pp.528-529 (LV-1) を参照。また「日泰寺目録」に No.25 *Abhidhammatthasaṅgha* phūk 1 (ka-ghaḥ) がある。本写本の綴じ紐は赤である。表紙、kaḥ 葉裏、kha 葉表・裏、khā 葉表にクメール文字による書き入れがある。

No.11 *Abhidhammattha-saṅgha* (2)

- 1. 標 題：○ / // bra abhidhammatthasaṅgha tva phūk 2 // ○
- 2. CPD 番号：3.8.1 (Abhidh-s: Abhidhammattha-saṅgh a)
- 3. 請求番号：PLI-MS-1-11
- 4. 使用言語：Pāli
- 5. 使用文字：Khmer
- 6. 数 量
  - a) 貝葉数量：33葉
  - b) 数量詳細：1, [4], 24, [4]
  - c) フォリオ番号：ga-ghaḥ
- 7. 貝葉形態
  - a) サイズ：54.1 x 4.4cm
  - b) 穴位置：左17.9cm 穴間17.9cm 右18.1cm
  - c) 小口塗装：金一色
  - d) 保存状態：良
  - e) 記入行数：5 行
  - f) 記入寸法：45.5 x 3.6cm
  - g) 文字形態：
  - h) 文字密度：17文字／10cm

8. 卷 頭：[folio *ga, recto*] PTS, p.27, ll.15ff.

- (1) na paccuppanabhavapariyosānabhūtaṃ cuticittamuppajjatvānirujjhati / tasmiṃ niruddhāvasāne tassānantarameva tathāgahitamālambanamārabhha savatthukamavatthu kamevavāyathārahaṃ avijjānusayaparikkhi
- (2) tena tanhānuseyyamūlakena saṃkhārenajaniyaṃ mānaṃ sampayuttadhammehi parigayhamānaṃ saḥajātādhiṭṭhānaṃ bhāvenapubbaṅgamabhūtaṃ bhavant arapaṭisandhānavasena paṭi

9. 卷 末：[folio *ghaḥ, recto*] PTS, p.51?

- (1) ○ yo hontu / pañattiyāsadvimṇi ○
- (2) ○ ñanassa saṅgahitattāhetu / bu ○
- (3) ○ ddaṃ saraṇaṃ gacchāmi dhammaṃ saraṇaṃ ga ○
- (4) ○ cchāmi saṃghasaraṇaṃ ga ○
- (5) ○ cchāmi / // tva // ○

10. 奥 付：無し

11. 内容細目：

12. 注記事項：

13. 備考：「大谷目録」 pp.529-530 (XIII-2) を参照。また「日泰寺目録」には No.26 *Abhidhammatthasaṅaha* phūk 2 (ka-khaḥ) がある。表紙右側にクメール文字の書き入れあり。本写本の綴じ紐は赤である。

#### 4 おわりに

本稿で得られた結果をまとめて結びとする。

まず、「暹羅經」が河口慧海の旧蔵書である点、また同写本の来歴については、本稿「2.4 河口旧蔵の根拠と来歴のまとめ」に記した通り、「暹羅經」を収める木箱蓋の裏面に記された銘文と貼付されたメモ書きは河口旧蔵書の根拠となり、その来歴は暹羅王室→大谷光演→大隈重信→河口慧海→東洋文庫と考えられる。

また、「3 資料概要」では No.1~11の書誌を、大谷目録に順じて示し

たが、結果的に「暹羅経」は、特定の文献がひとまとまりになったものではなく、雑多な文献の集積物であることがわかる。各資料に関する個別的な研究、そして本稿では紹介し得なかった No.12～18（本稿「1はじめに」の項を参照）については、今後の調査が期待されるものである。

## 略号および参考文献

### 略号

日泰寺目録：柏原 [2000]

大谷目録：大谷大學圖書館 [1995]

JPTS : *Journal of Pali Text Society*.

PTS : Pali Text Society.

### 参考文献

赤松徹真

[1999] [ほか] 編集『真宗人名辞典』京都：法藏館。

大谷大學圖書館

[1995] 編『貝葉寫本目録：大谷大學圖書館所藏』京都：大谷大學圖書館。

柏原信行

[2000] 「〈資料〉覚王山日泰寺所蔵の貝葉」『パーリ学仏教文化学』 pp. 131-138.

庄司史生

[2010] 「旅する本～立正大学所蔵河口慧海コレクション～」立正大学大崎図書館編『今昔蔵書選』東京：立正大学大崎図書館，pp.36-38.

[2012] 「東洋文庫所蔵・河口慧海将来蔵外写本チベット語訳『金剛般若経』と『法華経』について」『東洋文庫書報』43, pp.19-42.

高山龍三

[1999] 『河口慧海一人と旅と業績』東京：大明堂。

長崎法潤

[1997] 「大谷大学図書館所蔵貝葉写本の概要と入手経路」『真宗総合研



究所研究紀要』16、pp.127-132.

南條文雄

[1979] 『懷旧録：サンスクリット事始め』（東洋文庫, 359）東京：平凡社.

藤吉慈海

[1972] 「概 旭乗上人の生涯」『禪と念仏との間』東京：春秋社 pp.125-145.

[1991] 『インド・タイの仏教』東京：大東出版社.

堀伸一郎

[2013] 「東洋文庫所蔵未比定サンスクリット写本について」『東洋文庫書報』44, pp.1-24.

水谷教章

[1959] 『仏舎利小考（附）覚王山日泰寺略記』名古屋：覚王山日泰寺.

[1960] 編『釈尊二千五百年祭記念宝帖』名古屋：覚王山日泰寺.

吉元信行

[1997] 研究代表者「大谷大学図書館所蔵パーリ語貝葉写本の文献的研究」『大谷大学真宗総合研究所研究紀要』16, pp.121-224.

早稲田大学大学史資料センター

[2006] 「233-1大谷光演書翰 大隈重信宛」『大隈重信関係文書3』東京：みすず書房.

[2008] 「386河口慧海書翰 大隈重信宛」『大隈重信関係文書4』東京：みすず書房.

*Dhammasaṅgaṇi*, London: Pali Text Society, 1885. [東洋文庫請求番号XII-10-C-c-2-[19]]

*Kāthavatthu*, Vol.1, London: Pali Text Society, 1894. [同XII-10-C-c-2-[29]]

*Puggala-paññatti*, London: Pali Text Society, 1883. [同XII-10-C-c-2-[45]]

*Summary of the topics of Abhidhamma (Abhidhammatthasaṅgaha)*. *Exposition of the topics of Abhidhamma (Abhidhammatthavibhāvinī)* : being a commentary to Anuruddha's "Summary of the topics of Abhidhamma" by Anuruddha (Sacred books of the Buddhists / Pali Text Society, v. 50), London: Pali Text Society, 2007.

*Vibhaṅga*, London: Pali Text Society, 1904. [同XII-10-C-c-2-[60]]  
*Yamaka*, Vol.1, London: Pali Text Society, 1911. [同XII-10-C-c-2-[64]]  
*Journal of Pali Text Society*, London: Pali Text Society, 1884. [同XVIII-B-a-166-]

注

- (1) 河口慧海旧蔵資料にみられるラベルやメモの貼付については庄司 [2010]、同 [2012] を参照。また本誌『東洋文庫書報』第44号において、堀伸一郎氏は、同様のメモ書きの貼付を根拠として、未比定であった東洋文庫所蔵梵文写本を、河口旧蔵と推定されている (堀 [2013] を参照)。
- (2) 「15部」とのメモ書きの後に、木箱に3部の文献が新たに追加された可能性も考えられる。ただし、木箱のサイズと文献のサイズがほぼ等しい (本稿「木箱のサイズ」の項を参照) ことから、当初より18束がこの木箱に収められていたのだろう。
- (3) 『真宗人名辞典』によると、大谷光演は「明治～昭和時代の真宗大谷派の僧。東本願寺23世。明治8 (1875) 2.27～昭和18 (1943) 2.6… (中略) …1900年仏舎利奉迎の使者としてタイに赴く」とある (「大谷光演」p. 54)。
- (4) 暹羅王室から日本仏教徒への仏舎利の寄贈に際しては、「…暹羅王家の聖意を拝受することに決し、その年〔明治三十三年〕の六月に東本願寺法主大谷光演師を正使とする奉迎の使節を送り、現に当山の本堂に安置し奉る金銅の御本尊と共に真霊骨をお迎えし」(水谷 [1959: 44]) たとあるように、暹羅へ赴いた大谷氏とは大谷光演のことを指すと考えてよいであろう。なお、この一行には南條文雄も同行していたという (南條 [1979: 258-264]、また「大谷目録」p.xliii を参照)
- (5) 「大隈書簡」番号233-1～14である。早稲田大学大学史資料センター [2006: 40-48] を参照。① 233-1 (明治33) 年9月18日、② 233-2 (明治35) 年6月3日、③ 233-3 (明治35) 年6月11日、④ 233-4 (明治35) 年6月19日 \*大谷光瑩と連名、⑤ 233-5 (明治36) 年5月3日、⑥ 233-6 (明治36) 年6月23日、⑦ 233-7 (明治37) 年6月9日、⑧ 233-8 (明治37) 年9月15日、⑨ 233-9 (明治37) 年10月31日、⑩ 233-10 (明

治37)年12月4日、⑪ 233-11(明治38)年10月18日、⑫ 233-12(明治45)年6月5日、⑬ 233-13(明治 )年12月21日、⑭ 233-14( )年8月17日、の以上である。

- (6) 「大隈書簡」にはこの他に、寺本婉雅書簡も収められている。「大隈書簡」824を参照。
- (7) 「藏梵仏典購求会」は第二回チベット旅行の資金調達のために河口慧海によって起ち上げられたもので、河口慧海は各方面へ働きかけを行っていたようである(高山[1999:25,60,180]を参照)。1904年に博文館より発刊された河口慧海著『生死自在』には、資金募集PRのために「藏梵佛典購求會趣意書」なるものが付されていた(高山[1999:25])が、この趣意書は立正大学大崎図書館所蔵河口慧海旧蔵書の中にも見いだされる。
- (8) 大谷大學圖書館[1995:xliii-xlv]、吉元[1999:125]、長崎[1997:127-129]、柏原[2000:131-138]に詳しい。
- (9) 吉元[1999:125]によると、暹羅王室から寄贈された貝葉写本の中、大谷大学と日泰寺が所蔵しているものとは、請求時期が異なるという。
- (10) 日泰寺は「泰国(現称)が未だ暹羅国(旧称)と云っていた明治三十三年に同国々王陛下から日本仏教徒に贈賜せられた釈尊の眞の御遺骨、並びに同国々王陛下から賜った金銅の釈尊像を奉祀する道場として明治三十七年(仏紀二四四八)に建立せられたので、山号を覚王山、寺号を日暹寺と言って来ましたが、暹羅国が国名をタイと改称せられたので、それに応じて当寺も寺号を日泰寺と改称いたしました」(水谷[1959:43])とあるように、1897(明治30)年、インド・ネパール国境のピプラワーにてベツペによって発見された仏舎利が暹羅王室へ寄贈され、それがさらに日本仏教徒へと寄贈されるに至り、その仏舎利を安置するために創建されたものである(水谷[1959:44]を参照)。なお、日泰寺と大隈重信との関係は「この大石塔は伊東忠太博士の設計に成り、前の礼堂は帝室技芸員伊藤左工門氏の建設するところで、資材は大隈重信候などの寄進によるものであります」と記されている点から知ることができる(水谷[1959:45]を参照)。
- (11) 長崎[1997:128]を参照。

- (12) その他のシャム王室からの寄贈貝葉資料については、藤吉慈海氏が、概旭乗師請来文献について紹介されている。藤吉 [1972：125-145]、[1991：口絵] を参照。後者では写真を掲載している。このように、個別的には同様の写本が同時期に日本へと請来されたものと考えられる。
- (13) 素材については、「大谷目録」 p.xlv を参照。
- (14) この和紙について、東洋文庫図書部 篠崎陽子氏よりご教示賜った。記して謝意を表す。

(立正大学仏教学部助教)